

■ テーマ名

発展途上国のマイノリティー問題、バングラデシュの政軍関係、テロの問題、障がい生徒支援、持続可能なまちづくり

■ キーワード

バングラデシュ、マイノリティー、政軍関係、アジアの高齢者・障がい者、まちづくり、地域支援

■ 研究の概要

佐野光彦は、発展途上国、特にバングラデシュの政治を中心に研究をスタートさせた。同国の政治と軍隊の関係に興味を持ち、エルシャド元大統領の9年間の政権時代を研究テーマに選んだ。この研究テーマは、のちに博士論文としてまとめた。その後、バングラデシュのマイノリティー、特に清掃労働者の生活実態調査の共同研究を行った。担当部分は、清掃労働者の組織や、清掃労働者と NGO 組織との関連であった。

科研費での研究課題は、発展途上国の社会開発や NGO の活動と福祉政策との関連である。援助研究において、開発援助や NGO の活動には貧困者という目線は反映されているが、マイノリティーの視点が欠如しているとの認識から、清掃労働者と同じマイノリティーである障がい者や、発展途上国では比較的少数派である高齢者に興味関心を示し、現地調査をおこなった。また、2016 年からはアジア諸国における民主化と暴力の問題、2017 年より科研のテーマとして印刷物障がい学生支援問題などにも取り組んでいる。今後、援助研究や開発と貧困の研究には、ますます高齢者と障がい者などの少数者問題を考えることや、社会保障などの政策と政治との関連などを見る複合的な視点が必要となってくる。また、大学近隣の明舞団地で学生と共にまちづくりに取り組んでいる。このような課題を学生や、みなさんと共に考えていきたい。

<主たる担当講義>国際関係と福祉、社会貢献実践、生活福祉デザイン論など

■ 他の研究／技術との相違点

いつも他の研究では取り上げられないことのない点に注目し、研究を行っている。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

バングラデシュで行った障がいなどの調査が、発展途上国への援助や支援に生かされることを期待している。

■ 関連業績（特許・文献）

- ①日本学術振興会：科学研究費助成事業、基盤研究（B）26K00430、発展途上国の障がい生徒のドロップアウトと社会的孤立へのデジタル技術活用の研究、研究期間：2026 年 4 月—2030 年 3 月、代表者：佐野光彦
- ②佐野光彦「日本の軍事国家から福祉国家への反転の道」、進藤榮一、その他編著『大転換する世界「連欧連亜」という日本の生きる道』花伝社、2026 年
- ③佐野光彦「多国籍企業のグローバル人材戦略」、佐久間信夫、小林守編『多国籍企業の理論と戦略-改訂版』学文社、2024 年
- ④日本学術振興会：科学研究費助成事業、基盤研究（B）20H01607、バングラデシュの障がい児童・生徒への教育支援、福祉、弱者包摂に向けての総合的研究、研究期間：2020 年 4 月—2024 年 3 月、代表者：佐野光彦

■ 研究者から一言

バングラデシュが今後ますます注目されることを望んでいます。